



慰霊塔、慰霊碑の建立

▶ 県内慰霊祭の取り組み

1961年に「慰霊の日」が制定され、翌1962年、「慰霊の日」にちなんだ行事が各地で行われました。



〔沖縄県文書 / 広報課文書〕

「琉球政府関係写真資料 10」

慰霊大行進 1963年6月22日

資料コード 0000016623 写真番号 002615



〔沖縄県文書 / 広報課文書〕

「琉球政府関係写真資料 137」

慰霊大行進 1970年6月23日

資料コード 0000108847 写真番号 036342



〔琉球新報〕

「琉球新報 1962年06月01日～30日」

摩文仁慰霊祭新聞記事

1962年6月22日 資料コード T90000078B

▶ 遺骨収集

沖縄戦戦没者の遺骨は住民たちが収骨して供養していました。他の地域にさきがけて遺骨収集を始めたのは米軍によって糸満市米須^{こめす}に移された旧真和志村の住民でした。遺骨を収めた簡易な納骨堂は「魂魄の塔^{こんぱく}」と名づけられました。



〔沖縄県文書 / 広報課文書〕

「琉球政府関係写真資料 174」

魂魄の塔 1961年6月13日

資料コード 0000016787 写真番号 048748



〔沖縄県文書 / 広報課文書〕

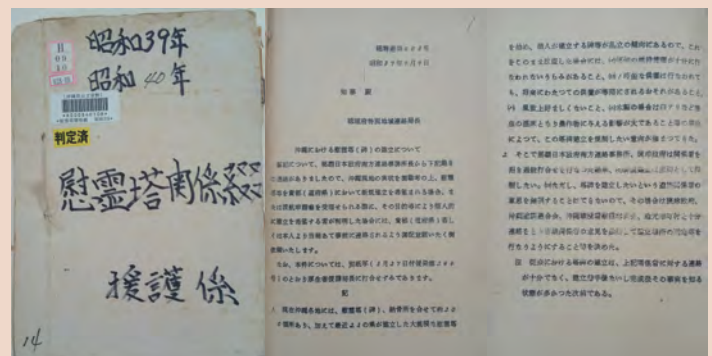
「琉球政府関係写真資料 065」

慰霊大行進 1966年8月11日

資料コード 0000108775 写真番号 018231

▶ 慰霊塔の建立

沖縄戦戦没者の霊を祀った慰霊碑や塔は沖縄島南部を中心に建立されました。個人や団体の塔が乱立し風致上好ましくないとの懸念^{ふうち}から、日本政府及び琉球政府は、沖縄遺族連合会及び沖縄戦没者慰霊奉賛会^{ほうさんかい}とともに、地元市町村と連携をとって整理・統合する方針を打ち出し、建立場所の選定などを検討するようになりました。慰霊塔建立に関する当時の琉球政府の方針が、下記の文書に記載されています。現在、沖縄県には330の慰霊碑、慰霊塔があるとされます。



〔琉球政府文書 / 援護課文書〕

「慰霊塔関係綴 1964年」 資料コード R00084010B